

佐
賀
県

ふるさと歴史物語



この本を読むみなさんへ

昔から「自分の生きている時代のことだけしか学ばない人は、なかなか進歩しない」と言われています。

歴史を学ぶということは、「過去」の出来事の積み重ねによってできた「現在」を理解し、「未来」を切り拓くことにつながるのです。そこに、歴史を学ぶ意義があります。

私は、少年時代、学校の本や身近な人たちの話の中から、昔の出来事や先人のことを知り、感心したり、思いを新たにしたりしました。

私たちのふるさと「佐賀県」には、歴史を学習するうえで、大変参考になる昔の出来事や先人の話が数多くあります。

みなさんがこの本をおして、歴史への興味や関心をもち、郷土をよく知るとともに、郷土を愛し、郷土の発展を支える人になってくれることを心から願っています。

平成七年三月

佐賀県教育委員会 教育長 林 田 重 人

この本を読むにあたって

「お茶は、いつごろ、どこで作りはじめられたのかしら。」

「昔、このへんに何か大きな建物があったと聞いたけど、本当かな。」

みなさんは、今までにこんなことを思ったことがありますか。

お茶や建物に限らず、現在の生活の中に存在するすべてのものには歴史があり、そのなかには私たちが知らなかったり、忘れられたりしているものがたくさんあります。今日の私たちの暮らしは、たゆみない自然と人の営みを土台に成り立っており、それらを学ぶことは大事なことです。この本では、奈良時代から明治時代までの佐賀県内の出来事や先人の話のうち、十七を題材として取り上げています。その題材は、

・ 郷土を知り、郷土に対して誇りや自信をもつようなもの

・ 歴史について興味や関心をもち、学習への意欲を高めるようなもの

などの観点で選んでいます。また、みなさんが気軽に楽しく読んでもらえるような工夫もしています。

この本を読んで、みなさんが郷土の出来事や先人について語り合ったり、さらに詳しく調べてみたりしてくれたら、大変嬉しく思います。

平成七年三月

編集執筆委員長

佐賀大学教育学部 名誉教授

久留米大学文学部 教授

杉谷

昭